

無痛分娩を
受けられる方へ



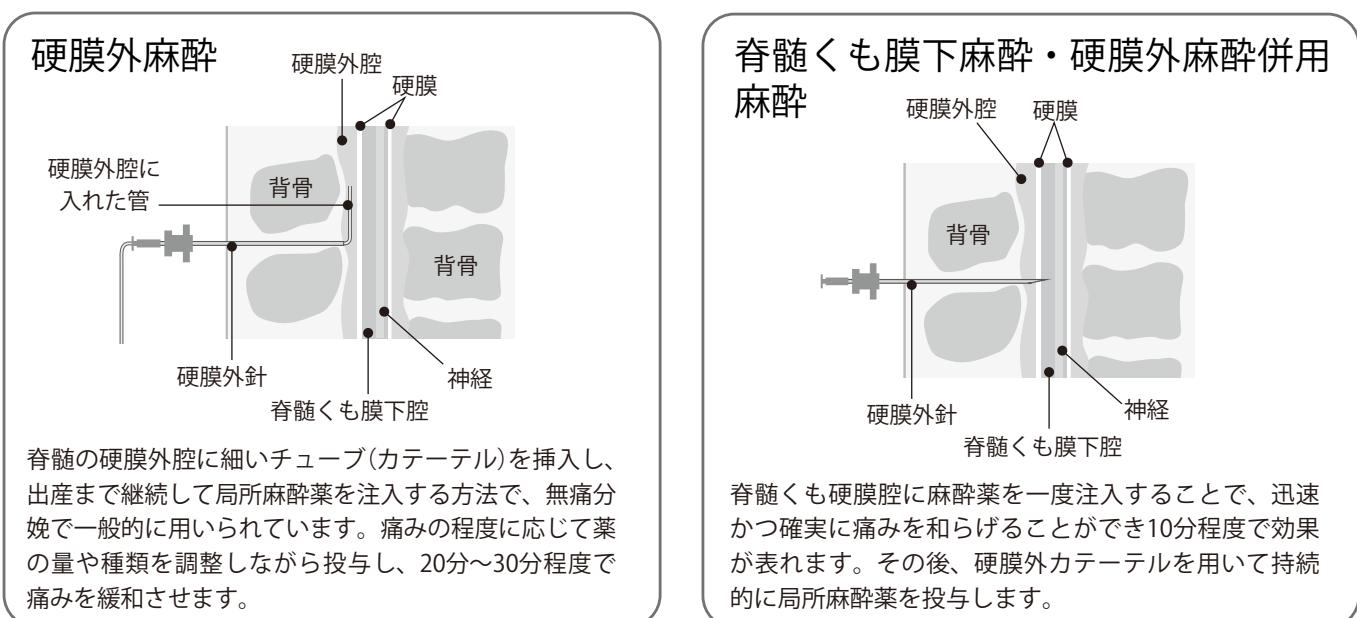
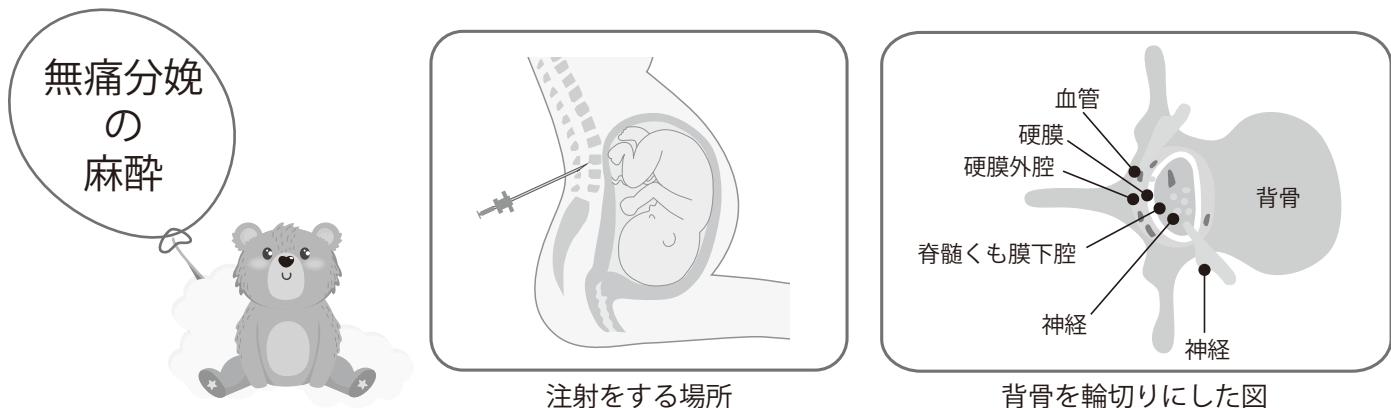
医療法人社団レニア会

アルテミス ウイメンズ ホスピタル



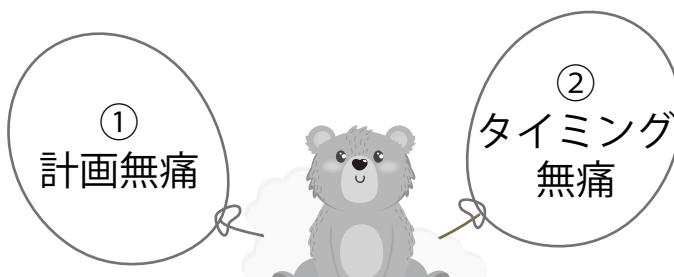
はじめに

当院で行っている無痛分娩は、CSEA（脊髄くも膜下麻酔＋硬膜外麻酔）、または硬膜外麻酔のみを用いた方法を行っており、実際には完全に陣痛の痛みを除去することはせずに痛みをかなり和らげることにより、分娩進行を促進させる「和痛分娩」に近い方法をとっています。麻酔中はお母さんの意識は保たれるほか、赤ちゃんへの影響もほとんどありません。

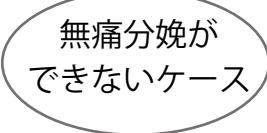


アルテミスの無痛分娩

主に経産婦が対象。入院して子宮口を広げるための処置を行い、翌朝から陣痛促進剤を用いた分娩誘発を行います。入院日は、36週以降の内診の結果をもとに相談し決定します。ただし、有効な陣痛が得られず、1日では分娩に至らない場合があります。



陣痛、破水で入院となつた後、分娩進行状況や母児の状態を見ながら麻酔処置を開始します。休日・夜間は無痛分娩を行えません。



- ① 休日・夜間の分娩：無痛分娩中の母児の安全を最大限図るため
- ② 血液検査（血小板数・凝固機能）の異常：合併症のリスクが高まるため
- ③ 麻酔に協力できない方：麻酔処置中に神経を傷つけてしまう可能性があるため
- ④ 脊椎の手術を受けたことのある方、側弯症の方

肥満の方は麻酔処置に時間がかかることがや、麻酔の利きが悪くなることがあります。（目安として BMI 30～35 以上）



- ① 分娩時間が約 1 時間長くなると言われています。
- ② 陣痛促進剤を使用する頻度が高くなります。
- ③ 出産の際に吸引分娩または鉗子分娩となる確率がやや増加します。
※緊急帝王切開になる確率は増えません。

硬膜外無痛分娩で 起こり得る 副作用や合併症

硬膜外無痛分娩の安全性は確率されていますが、いくつかの副作用が確認されています。そのため分娩中は硬膜外麻酔を受けたお母さん的心電図、血圧、酸素飽和濃度をモニタリングし、定期的に医師が診察します。また、赤ちゃんの心拍をモニタリングしながら適切な治療を行います。

● 血圧低下

点滴や昇圧薬を投与し治療します。お母さんには仰向けよりも血圧が下がりにくい横向きの体制を取っていただくことがあります。

● お産への影響・分娩第二期の遷延

分娩第二期（子宮の出口が完全に開いてから赤ちゃんが生まれるまで）の時間が延長する場合、帝王切開の必要性を減らすため、陣痛促進剤や吸引分娩が必要になります。

● 脚のしびれ、力が入りにくい

脚の感覚が鈍くなったり、動かしにくくなることがあります。

● 排尿障害

尿意を感じにくくなったり、排尿をしにくくなることがあります。

● 嘔気・嘔吐

分娩が進行すると起こりやすくなります。また、麻酔による血圧低下を原因とする場合もあります。

● 腰痛

産後2~3日の間、腰痛が持続することがあります。また、出産によって引き起こされる痛みを原因とする場合もあります。

● かゆみ ● 発熱

副作用

● よく起こる合併症（10%）

分娩中に痛みが取れない。もしくは身体の片方だけ麻酔の効果が表れていない。

● 時々ある合併症（1~3%）

産後、ひどい頭痛が続くことがあります。

● あまりない合併症

カテーテルが脊髄くも硬膜腔や血管内に入ってしまうことがあります。

【脊髄くも硬膜腔に入る場合】

麻酔が肩や手まで広がり、足に力が入らないなど

【血管内に入る場合】

局所麻酔薬中毒になり、けいれん、不整脈などが起こります。

● 非常に重大な合併症

● 硬膜外血腫（1/100万人）

● 硬膜外膿瘍（1/5万~10万人）

● 重大な神経障害（1/25万人）

分娩が原因で脚のしびれが起こることもあります。

持病に ついて

色々な病気には、麻酔中に特別な管理を必要とする場合もあります。また、普段飲んでいる薬が、麻酔方法や投薬量を決める上で重要なことがあります。必ず医師に伝えてください。妊娠35週以降はサプリメントの服用は中止してください。

〈麻酔管理上、特に問題となる主な病気〉

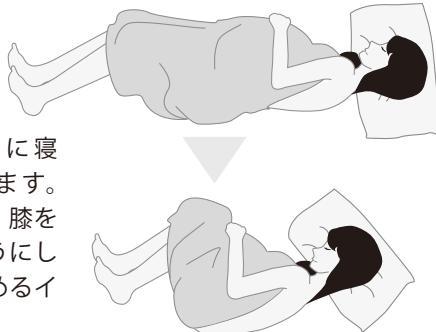
風邪、喘息、高血圧、胃食道逆流症、狭心症、心筋梗塞、不整脈、弁膜症、糖尿病、甲状腺疾患、肝臓病、腎臓病、脳梗塞、肺疾患、神経疾患、精神疾患、アレルギー、サプリメントの服用など

麻酔を する時の 体位



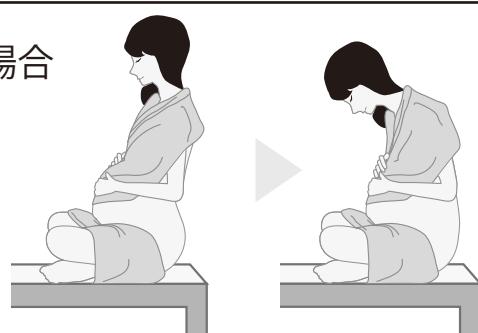
ベッドで横向き寝るか、座った状態で背中から麻酔を行います。頸を引き、背中を丸めて、腰を後ろに突き出す姿勢を取ることで硬膜外カテーテルが挿入しやすくなります。入院をする前に練習をお願いします。

横向きに 寝る場合



ベッドに横向きに寝て、背中を丸めます。自分の頸を胸に、膝をお腹につけるようにしてお腹を引っ込めるイメージです。

座る場合

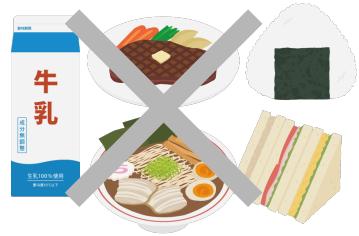


ベッド上に座り、背中を丸めます。自分の頸を胸に、膝をお腹につけるようにしてお腹を引っ込めるイメージです。

無痛分娩中の過ごし方

【お食事・お飲み物】

安全のため、無痛分娩中は禁食としています。代わりに経口補水液を提供します（水、お茶などの水分は可）。日中に分娩が進まず当日の麻酔を行わない場合は食べても良い場合があります。



【どれくらいで動けるの？】

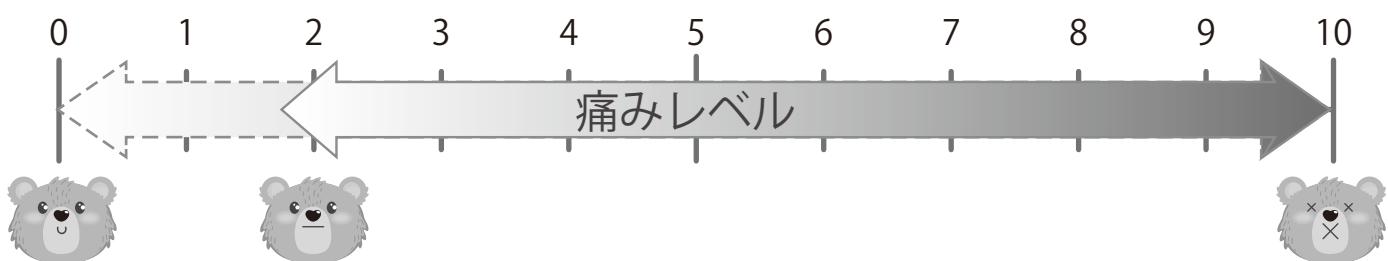
麻酔開始後は足に力が入りにくくなることがあります。歩くと転んでしまう危険があります。このため基本的にはベッドの上で、座ったり横になったりして過ごしていただきます。

麻酔の効果

想像できる最大の痛みを10点、全く痛みがない状態を0点とした時、10点の陣痛を2点くらいに和らげることを目標とします。器械から自動で薬が投与されますが、足りない場合にはご自身で追加することができます。ボタンを押して15分ほどで効いてきますが、痛みが取り切れないときは医師や看護師に伝えてください。必要に応じて麻酔薬を追加します。

全く痛みなし

最大の痛み



無痛分娩の費用

通常の分娩費用に加えて、一律108,000円。麻酔薬をたくさん使っても、複数回麻酔した場合でも、追加の費用はありません。実際に麻酔処置を始めるまでは費用はかかりません。無痛分娩の途中で帝王切開術になった場合は、帝王切開術のため麻酔管理料が別加算されますが、麻酔管理料は、保険診療の対象となります。

無痛分娩をご希望の方へ

- 下記のQRコードより動画をご覧ください。
- ご不明点は診察時に医師に質問してください。
- 包括同意書は妊娠35週位にお渡しします。承諾書にサインをして受付に提出してください。

